

アッカーマン報告書について

先頃発表されたアメリカ農産物の輸出制限措置によって、わが国はまた強烈なニクソン、ショックを受けた。

それで思い出したのが、20数年前のアッカーマン報告書である。「1950年日本の人口は820万人であるが、1970年には970万人と予測される。仮りに800万人として、1人1日2,160 cal, 蛋白質70 grの食糧は、年に225.5万屯の蛋白質を含む2,200万屯を必要とする。しかし、ここ数年間余程の好条件に恵まれ、必要食糧の82%を自給するとしても、年々550万屯(米換算)は不足する。従って、日本は継続的な栄養失調か、人口縮減かをまねがれないであろう。」

現在、わが国の人口は1億1千万人となったが、継続的营养失調にあるとは聞かない。むしろ、老若男女を問はず肥り過ぎが問題となっている。しかも、自給率は7割程度に低下しているから、当然ながら輸入が増加して46年度35億5千万ドル、その年度の農業関係一般会計予算1兆83億円を1千億円前後上廻る金額となった。

銭のことは気にしなくてもよいとして来たが、紙幣があっても買えなくなったらどうなるか。47年度輸入した麦、大豆など合計1,960万屯の全てが入らないわけではないにしても、アッカーマン報告書の指摘は今日の意味を失ってはいないと思われる。

今回のニクソン、ショックによって、巨大なGNPのもたらす繁栄とやらいかに脆弱な食糧需給の基礎の上に築かれたものであるかを、衣食足って農業を忘れ、環境汚濁の“カナリヤ”

目 次

(第7巻第5号)

水稻作における除草剤土壌混和処理

- I 土壌混和処理のねらい…………… 2
- II 土壌混和処理除草剤の地下部
選択殺草性…………… 4
- III 土壌混和処理における除草効
果・薬害の変動要因…………… 7
- IV 土壌混和処理除草剤の使用法…………… 9
- V 土壌混和処理における今後の
課題…………… 12

農林省農事試験場作物部

片岡孝義

昭和47年度秋冬作野菜・花き関係
除草剤、生育調節剤試験成績概要(1)

- 昭和47年度秋冬作野菜・花き試
験判定結果…………… 14
- I 除草剤…………… 17

農林省野菜試験場育種部長

西貞夫

新登録除草剤一覧…………… 24

新登録生育調節剤一覧…………… 26

農林省農蚕園芸局植物防疫課

新除草・調節剤…………… 27

植調協会だより…………… 27

となった多くの国民に知らせてくれたことについて、喜ぶべきか悲しむべきか—と嘆ぜざるを得ない。(48, 7, 10 記)

(農林省農事試験場畑作部長 松実成忠)